

新型コロナウイルス感染の有無を調べるPCR検査センターが狛江市に近日中に開設される。運営を担当する狛江市医師会会長の片山隆司さん(57)に同センターと新型コロナウイルスについて話を聞いた。

狛江市医師会の新型コロナへの取り組み■新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、狛江市は2月20日に新型コロナウイルス感染症対策本部を設置しました。その分科会として医師会の意見を求められ、3月には専門家協議会が開催されました。医師会にも新型コロナウイルス感染症対策会議を設けています。また、狛江市など6市で構成する北多摩南部保健圏域の医師会会長や保健所などの関係者が集まる対策会議、さらに広範囲の北多摩全体でも対策会議を開いています。毎週のように入る会議や連絡会、打ち合わせの前段階のメールのやり取りなど情報交換の作業がすごく多く、診療の合間にメールをみて、返事を出すなど、コロナ対策には一瞬たりとも気が抜けない状況の中で毎日を送っています。外部の会議に出席するのは主に私ですが、その情報を基に医師会の対策会議を定期的に行っており、副会長などの執行部や事務長、公衆衛生に関わる理事の先生たちと意識や情報を共有しています。
コロナとの闘い■全国的に医療機関の受診数が減っています。特に耳鼻科、小児科、整形外科などは受診抑制の程度が高いと思います。密を避け、待てるものなら待とう、不要不急を避けようという心理が働いているのでしょうね。一方で、クリニックの形態や、自身の体調などさまざまな事情で発熱患者は診ないというクリニックが増えました。クリニックでも、発熱の方は完全予約制にしたり、時間をずらしたり、導線を分けるなどの工夫が必要です。狛江市医師会の休日急患診療所もコロナ対策として、同様のスタイルで、一般的な救急は午前中、発熱は予約で午後、スタッフが防護具を着用して患者を診ています。
発熱外来を行う医院では、マスクや

PCR検査センターは狛江の医師にとっても待望の施設です

フェースガード、手袋、ガウンに身を固め、医師もスタッフも最善の注意を払いながら診療をしています。いまは確定診断のための検査の手段もなく、治療の武器もない状況です。でも、なんとか困った患者さんのためにがんばりたい。そうしたなかで救



狛江市医師会会長

かたやま たかし
この火 片山 隆司 さん

いになるのが地域のPCR検査センターです。
PCR検査センター開設まで■東京都医師会が4月にPCR検査センターを都内に47カ所つくと発表したとき、狛江市にも設立できるよう狛江市医師会から市に提案しました。その時点では、市内に保健所や公立病院がないなど難しい状況でしたが、市と協議を続けて開設に向けて動き出しました。計画したのは4月中旬でしたが、場所の決定まで時間がかかりました。

設置してくださるのは市ですが、運営は医師会が担当します。ただ、施設ができて、すぐスタートできるわけではありません。これまでコロナ診療に関わった医師は医師会にはいませんので、防護具の着脱や検体の採取のシミュレーションなどの十分な訓練が必要です。実際に検体を採取する先生と、介助してくれる看護師の確保も重要です。条件を整えて医師と看護師を募集し、従事するスタッフの講習会と訓練、現場でのシミュレーションを経て稼働するという段階を踏まなければいけないのです。当面は水曜日と木曜日に開設する予定で、その日が休診日の先生に交代で担当してもらいます。センターへの出務は自由意志なので、手

を挙げてくださった医師たちが協力して持ち回りで運営します。このほか経費の問題や感染した時の補償、資材の準備と備蓄、施設内の患者さんの導線確保など開設までにやるのが山ほどあります。いまのところ8月上旬にはスタートできるよう調整しています。なお、PCR検査を受けるにはかかりつけ医の紹介が必要ですが、これを機会に市内にかかりつけ医をつくってください。
PCR検査センターの役割■保健所に相談してもPCR検査を受けられず、かかりつけ医に戻ってくるケースがすごく多いのが現状です。われわれのところへ戻されてきた人が明らかに疑わしい場合、検査をしたいけど、保健所でしてくれないなら、どこかでしてもらわなきゃいけない。そういう時、かかりつけ医の紹介で検査してもらえPCR検査センターが市にあることが重要です。病院などにはコロナ外来を設けるところがありますが、そこはよほど感染が強く疑われる症状のある人しか紹介できません。濃厚接触者ではなく、なんとなく具合が悪いので検査してほしいという程度ではコロナ外来は紹介できません。そういう場合の受け皿となるのがPCR検査センターで、狛江の医師にとっても待望の施設なのです。

片山隆司さんの横顔=新宿区生まれ。幼少期に救急搬送に触れる機会があり医師を志す。昭和63年に東京慈恵会医科大学を卒業し同大附属病院に勤務。附属第三病院糖尿病・代謝・内分泌内科診療医長などを歴任。平成14年にかたやま内科クリニックを開院、令和元年に16代目の狛江市医師会会長に就任。日本内科学会、日本糖尿病学会などに所属、糖尿病に関する教育用ビデオやカロリー・食品に関する書籍などを監修。野球、テニス、馬術、スキーなど多くのスポーツに親しむ。休日は小学2年生の娘と犬2匹と外で遊んでリフレッシュする。三鷹市在住。



◆ 90 ◆

澤井(東野川3-4-15)は、昭和50年に食料品のスーパーマーケットとして創業以来、時代に合わせて業種を変えながら営業を続け、現在はとんかつ専門店として地域の人に親しまれている。

創業者の澤井昭さん(90)は八王子市で会社員の次男として生まれ、三鷹市上連雀で育った。9人兄弟だったが、戦争のため無事成長したのは昭さんと弟の2人だけだった。父は終戦後に自宅で荒物屋を始めた。高等小学校を卒業した昭さんはミシンメーカーに就職し夜間の大学に通ったが、数年後に会社と学校を辞めて家業を手伝った。店は燃料や食料品、酒など扱う商品を増やし、売り上げも順調に伸びた。母校の校長の紹介で弟の同級生で農家出身の久子さん(85)と35年に結婚、



澤井康真さん(左)と久子さん

定食屋からとんかつ専門店に衣替え

澤井

るなど、別の商売を模索。現在の場所に土地を購入し2階建ての店舗を建設、家業を弟に譲って50年に食料品スーパーを開いた。店の前の松原通りは当時、未舗装の狭い道でバスが通る度にほこりが舞ったという。周囲も畑が点在していたが、次第に住宅が増えた。子どもの学校のため転居せず、子育てを両親に頼んで三鷹市から夫婦で通い、女性パート従業員を雇って店を切り盛りした。肉やハムを量り売りし、高級チーズも扱うなど、まだ商店が少なかったこともあって顧客が増え、経営は短期間で軌道に乗った。
しかし、開店間もない52年に近所にスーパーが進出することになり、市内初の大型店出店反対運動が起きたものの、東京都の指導要綱に基づいて協定が締結され出店が決まった。その影響で店の売り上げが急速に落ちたため、昭さんは次の商売を考えるため約1カ月間渡米し商業施設などを視察。この時、日本ではまだ珍しかったピザに着目、帰国後に店を改装してピザ専門店を始めるとともに、店の2階に住居を移した。しかし、客足は思うように伸びず、約4年で閉店し、和食中心の定

食屋を始めた。1本買いた大きなブリをさばいて刺身を出したり、副菜がたっぷり付いた焼き魚や煮魚などの定食はたちまち人気を集めた。銀行や会社などが宴会を開いたり、弁当の注文も多く頼まれて繁盛した。
この間、上の2人の子は独立したが、生活協同組合に勤めていた次男の康真さん(51)と相談し、平成5年にとんかつ専門店に衣替えした。この年は冷夏で記録的な米不足や農産物の不作に見舞われ、米を仕入れるため新潟県まで出かけたり、付け合わせのキャベツの高騰などで開店までに大変な苦労を味わったという。開店当初は分業で、肉の仕込みと揚げ物は康真さん、豚汁や副菜の肉じゃがや角煮などは昭さんと久子さんが担当。市内に専門店が少なく、ていねいに揚げたとんかつと副菜が人気を集め、市外の客も多い。その後、昭さんが病で第一線を退いたため、康真さんと久子さんの2人で働いている。久子さんと康真さんは「時代の変化に合わせていくのが大変でしたが、応援してくださる人たちのお陰で続けてこられました。お客さんの『おいしい』という言葉を励みにコツコツと続けていきたい」と話している。
澤井☎3488-2351、営業時間=午前11時30分~午後2時/5時30分~8時、水曜休み

昭和50年に食料品スーパー創業/早過ぎたピザ専門店

9月の公募展に向けて絵手紙教室

絵手紙教室が6月27日と7月18日日に狛江市防災センターで開かれた。この教室は、市制施行50周年に向けた絵手紙の企画のひとつで、初めて市の主催で催された。訪れた人たちは9月に催される公募展のテーマである「未来の自分へ」または「未来の狛江へ」に沿った絵手紙にチャレンジ。「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会の委員の指導で筆を

走らせていた。市では、「絵手紙ひろば」など「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会が絵手紙の教室を開いているが、ことは2月末から新型コロナウイルス感染症拡大防止のためいずれも中止されていた。参加者の中には、絵手紙創作のイベントに定期的に参加している人もあり、「久しぶりに指導が受けられてうれしかった」と喜んで



絵手紙をかく参加者

教室で描いた作品のうち、本人が希望する場合、全国の絵手紙愛好家から寄せられた作品とともに公募展に展示する予定。公募展は9月9日(日)~11日(金)午前10時~午後4時にエコルマホール6階展示・多目的室、

ひろがれ 絵手紙の輪

9月27日(日)~30日(水)午前9時~午後5時に市役所2階ロビーで催される。問い合わせ ☎3430-1111 地域活性課コミュニティ文化係。
なお、上記の催しは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期または中止、参加人数を制限する場合は事前申込等になる場合があるため、最新の情報は市ホームページを参照。